

文科省の信濃参事官が資料 30-1-1(概算要求額)を、続いて中川課長が資料 30-1-2(概算要求の主要事項)を両者合計 13 分弱で説明した後、13 分弱の質疑応答があった。(今回から、「宇宙基本法」の条文に合わせた分類で示すようにした。合計額は 249,762 百万円で前年の 190,612 百万円に対し、30%増の要求である。また、各省庁の宇宙関係予算は、新しく設置された戦略本部が集約する事になったので、本日の資料は文科省の分だけが示されている。)(概算要求額は「宇宙基本法」の条文より細かい内訳が無く、「主要事項」の合計額が概算要求額と一致しないので、却って中身が解り難くなってしまった。また、30%増は大変大きな増額であり、本当に実現出来るのかと云う質問もあったが、中川課長は「宇宙基本法の追い風に乗って」と云う説明だけであった。)

池上: 先ず、全体の流れとしてですネ、今回戦略本部が出来た訳です。

中川課長: はい。

池上: あそこで矢張り今回はどう云う事をやって、

誰か: マイク使ってないよ。

池上: あの、戦略本部が一昨日出来た訳ですよネ。あそこは今回の概算要求に対するポジションで、どんなポジションになってるんですか。

信濃参事官: 先程もご説明しましたが、政府全体の宇宙開発予算、宇宙利用予算について取り纏めると云う事で、各省の施策全体を一応把握すると云う事を行っております。

中川課長: 実際的には一昨日出来たばかりで御座いますので、概算要求については各省から出たものを取り纏めて、其れを見ながら、恐らく政府原案作成までの間には何等かの、本部としての、オールジャパンとしての色々なメッセージを出す事になるかと思います。

松尾委員長: 元気の良い要求と云う事で、ホントの元気に繋がる様に頑張ってもらいたいと云う風に思います。あと、GX 関連予算につきましては、先程一寸ご説明ありましたけれども、色々な状況に対応出来る様な予算額と云う事でありますけれども、まあ、其の色々な状況の中で大きな要素の一つは、本委員会でも其の評価が進行中だという事でありまして、念を押す迄もないとは思いますが、此の評価結果を踏まえて取扱わなければならないと云う事を十分ご留意頂きたいと云う風に申し上げておきます。宜しゅう御座いますか。

中川課長: あの、前回ですか、7 月 30 日に重点事項のご議論頂いた時にも其の様な話があったかと思えます。本年 2 月に策定頂きました、宇宙開発に関する長期的な計画の中に、GX ロケットの今後の進め方については、現在行なってる評価の結果等を踏まえ進めると云う風に明示されております。ご指摘の点を踏まえて、対処する所存で御座います。

池上: 宜しいですか、あと一つ。あの、今回一枚紙はですネ、基本法の各条項に従って分類してる訳ですネ。で、此れは、勿論今迄は無かった訳なんですけれども、或る意味じゃ、其の基本法を勉強する上で私にとって非常に参考になったんですが、中で 4 条 産業振興の所に今回のプロジェクト

のかなりの部分が入ってる訳ですね。で、一つはその、数字で、此処は約1千億を越えてるんですが、先程の説明ですと、ええと、約500億、これはどう云う違いが有るんですか。

中川課長:これは主だったプロジェクトだけを載せて御座いますので、JAXAのまあ例えば一般的なものを、それからその他のプロジェクトを含めると、ええあの、伸びの大きいものを此処に取り上げましたので、そう云ったものを足し算するとそう云う風になると云う事で御座います。

池上:そうすると、寧ろ此の説明に書いてある500億って云うのは具体的なプロジェクトを積み重ねると500億と。

中川課長:はい。

池上:しかし、もう一寸関連を含めると一枚紙に書いてある様に1千億を越える<sup>1</sup>と、こんな理解だと。

中川課長:そうですね。

池上:で、そ、いや、私は非常に此れあの、何て言うか、非常に良い方向付けだって云う風に思うんですけど、今迄余り産業振興って云う感じでは、正直言って私を含めてですネ、余りそう云う意識無かったんですが、寧ろそうするとイノベーションという感じなんですかネ。

中川課長:今のご指摘の此の条文毎の整理と云うのは、此の産

---

<sup>1</sup> 中川課長は肯定しているが、中川課長の説明と池上委員の発言には微妙な差が有る。「主だった、しかも予算の延びの大きいプロジェクト」と、「具体的なプロジェクト」が、同じ事を意味しているとは思えない。

業の振興の所に、例えば宇宙基本法少し読みますと、其の15条に人工衛星等の自律的な打上げ、16条に民間事業、17条に信頼性の維持向上と云うものをまあ其処にどれが当たるかと云うものを条文毎に割り切って、重複計上しない様にして、足し算と言うかまあ、便宜上斯う入れていると。先程も申しました様に例えば国際協力って云うのは色々な面で国際協力御座いますので、そう云うもの敢えて割り切ってやって居ります。一方此の産業振興の所は、ご指摘の通りですネ、例えば先程目玉と申しました、産業振興基盤の強化と云うものは、矢張り、宇宙基本法の主旨で産業利用・産業振興と云ったものが一つ大きく掲げられて居りまして、其の中で現在のJAXAの役割としては恐らく産業に補助金を出すと云う様なやり方ではなくて、正に此処に書いて御座います、産業の基盤となる、或いは国際競争力の源泉となる技術基盤、此処の処をキチッと確保する<sup>2</sup>と、で、其れが単に技術開発を確立する、基盤を確立すると云う事だけではなくて、其れが実際の産業競争力に繋がれる様なものになる様に、或る程度そう云うステージから、民間と、産

---

<sup>2</sup> 世界経済に影響力の大きな国として、他国に依存しない為に必要な技術は、自ら開発して習得しなければならない。また、将来に互って経済的優位を継続させる為には、其の鍵を握る技術で国際競争力を付けなければならない。此の発言では、後者の事しか考えて居ない様に聞える。JAXAは寧ろ前者に重点を置くべきであり、其れが出来ないのであれば別の省でやって頂かなければならなくなる。

業界と斯う、一緒になってやって行くと云うものが矢張り今年は踏み出した処と云う風な事と考えて居ります。其の意味で、あの、**正に源泉のイノベーションの処をやる**<sup>3</sup>所と云う事だと思えます。

池上: そうすと、今迄ですと産業支援て言いますとネ、補助金を出す様な、寧ろ経産省がやる様な仕事って思ったんだけど、しかも此の中で、15条に関連した「人工衛星等の」と云う約1千億についても、何か産業の進行の処に一応入れてる訳ですね。で、此れはだから寧ろ、今仰られた様にイノベーションで云う風に理解して、そう云う心算でやってくと云う事なんですネ。

中川課長: まああの、JAXAの役割として、其れは研究開発の中核を担う機関として、

池上: で、産業を見ながらやってく?

中川課長: はい、それは今迄もそうだった訳で御座いますが、

池上: あんまりそう云う意識は、

中川課長: いや、ただ、其れをより其の何て言うか、例えば右側の小型化軽量化と云うもので、此れは何故JAXAがやるかと云うと、当然JAXAとしても斯う云う技術を保有をして将来の宇宙開発と云うものに持って行くと。ただ其れは同時に

<sup>3</sup> 注記2の前者は、必ずしもイノベティブな技術を扱わなくても良い。ジッポの紛い物のライタは、見掛けは酷似しているが、火の点き易さ、燃料オイルのもちなど、大きな違いがある。他国に依存してはならない技術について、本物の技術を維持伝承することは、革新的である事より堅実である事の方が優先される事もある。

此の民間のニーズにも合った様なものを開発することによって、正に産業競争力の強化と云う観点で、大きな意味があると。そう云うマインドを矢張り非常に強めて行こうと云う事だと考えています。

池上: 私非常に共感するんですけど、如何ですか。

青江: あのー、多分、**産業の振興**と言いましょかですネ、**其の意識が無かった事は決してないと思う**<sup>4</sup>んですよネ。ただ、まあ例えば衛星のシリーズ化だとかね、そう云った所謂産業的な、まあ競争力の強化と云う風な事に向けての、斯う具体的なツールみたいなものが無かったんですネ、今迄ネ。で、やっとそう云った事が出来る様になって来た。と同時にまあ、此れだけまあ衛星が熟して来て、それで少し斯う所謂、まあ、パーツ乃至コンポーネントレベルでストラテジックに選び出して、対応して行くと云う事も出来るようになって来た。そう云うまあ一種の時代と言いましょかネ、時代の進展と、そう云った事じゃないかと思うんですよネ。ほれで

<sup>4</sup> JAXAがどんな意識で居たかに関係無く、企業は其の存続を考えて居るので、其の技術を育成してJAXAの注文を取り続ける事、輸出が可能であれば輸出する事を努力して来た。また、JAXAの開発を受注したが、其の将来性を見出せなかった場合に撤退した企業もあった。中小企業の参入が少ないのは、長期的にばかり考えていたら中小企業はもたないからでもある。また、産業界の協力無しにプロジェクトは進まないが、其れを考えているJAXAの方々は、産業界にばかり負担を強いることはしない様に努力されて来た。そんな意味での振興の意識は持ち続けられて来た。



ネエ、その正に戦略的技術開発と此処に書いてある様な、あの事、此の前もあの、電子機器関係で、少しどんな風な状態になってるのかと云うのを、来て貰ってお話を聞いたんですが、まあ順次手が打たれてるって言いましょうかですネ、云う事なんです、如何せんやっぱり此処に対するお金の掛け方と云うのがですネ、やっぱり相対的に言うと小さい。と云う事は現実なんですネ。それでまあ、**此の要求段階の 500 幾ら増の事でどう斯う言ってもまあ、言ってもまあしょうがない訳ですが、此の 12 月に向けての仕上がりの中で、此の戦略的技術開発と言っかこつとる部門、此処についてのお金についてはですネ、矢張り十分な配慮をして貰いたい<sup>5</sup>**ナと。あの金額的には、こう、絶対額もそんなに大きくはならなくても良いと思うんですよネ。ですけれども今迄よりもかなり意を用いた形にして貰えると良いネエと云う風に思いますですネ。

池上：すみません。あと、先程「人類社会の発展」これはあの、人類の知に対する貢献で云う風に、基本法の中でもそう云う様な書き方にはなってるんですが、相当要求は大きいですよネ。勿論これは頑張ってくださいって言い方になるんですが、こんなに大きくシフトしていても行けそうなんですか。

青江：まあ、頑張りますでしょうネ。

中川課長：あの、概算要求の段階では此の宇宙担当課長は恵ま

<sup>5</sup> 何しろ要求しなければ取れないので、まずは此処に元気に計上し、関係者一同が元気になる様、12月に向けて文科省に頑張ってもらくと云う事だろう。

れて居りまして、まあ、年末も相対的には恵まれて居るんで御座いますが、大変あのこう、夢を語っているのとですネ、更に宇宙基本法の追い風を受けてですネ、省内の所謂シーリングとか、平均点よりも、他も此方に頂いてて、他局・他課から大変恨みを買ってるんで御座いますが、まああの、此の時点では未だ着地。これから折衝で御座いますので、何処迄着地するかと云う処の中で、資源配分とかメリハリと云うものを一緒に考えて行かなくてはならないと。で、今回あの、其の意味では戦略本部の方とも相談しながらですネ、オールジャパンと云う観点からも連携等を考えて、年末に向けてやって行くんだと考えて居りますが、確り頑張りたいと思っ居ります。

池上：あと一点、これはですネ、天唾になる様な感じかも知れませんが、**宇宙ステーション関連は国際協力に入ってるってのは、私個人的には余り好きではない<sup>6</sup>**ですけどネ。国際協力と云うのは、私は国際の場で以ってと云う話なんです

<sup>6</sup> ISS や国際探査構想は、他の宇宙プロジェクトとは違う原理で動かされているので、此の様な扱いも捨てたものではない。但し、宇宙基本法の他の項目が目的・目標を示しているのに対し、国際協力だけが手段を示しているという違和感はある。手段を敢えて目的・目標と同格で並べた真意を汲むと、斯う云う事になるのではないか。アメリカは単独であっても先に進むが、其れが許されない事と理解しているので、国際協力を呼び掛けている。日欧は財政負担を少しでも減らす為、「一緒にやろう」と言いながら、計画が少しでもゆっくり進む様に働き掛けるのである。

けど、是非日本の中で上手く其れが、(全く言語不明瞭)出来たら他の項目に入る様にして行かなければいけないという風に思っておりますが、此れは多分我々自身に責任があるって話になって来るんで、其れ以上の事は申し上げませんが、じゃあ其の国際協力の中に ISS が入ってるってのは、金額の大きさを含めましてね、一寸こう違うなって感じがして居ります。此れはもうコメントだけですから。

中川課長:実は、何処でも其の様なご指摘を受けましてですネ、特にあの、国際と云う切り口は、宇宙が矢張りお役に立つと云うのは一つ国際と云う切り口が有るからの事であり、「だいち」であり、「きずな」でありますネ、まあ衛星であれ、まあ宇宙から見てるから国際なんであってですネ、其の意味ではどれも密接不可分<sup>7</sup>であると。それからあの、国際競争力であったり、国際協調であったり、色んな面があり、あの、そう云った面を含め、まあ此処だけ一寸特出してるのが寧ろ違和感があるかも知れません。そう云った整理論もまた、本部と相談しながら色々やってくんではないかと思っております。

松尾委員長:さっき一寸青江さんも言及されましたけど、産業基盤の話のみならず先進技術への投資みたいなものは、まあ、基盤への投資ってのは大変或る意味じゃあその、費用対効果が良いものだと云うミカタレ(?)と思っておりますので、是

<sup>7</sup> 宇宙が領土外だからと云うのは、全く理由にならない。また、リモセン画像の提供は、国際協力とは違う原理で動かすものである。

非其処は努力をして行って頂きたいと云う風に思います。

中川課長:あの、ご議論の中に多分先程来、あの、今、最近の宇宙開発委員会でも多分問題意識で大きく現れてるのは、其の先進技術で次のものをドンドンやると云う事と同時に、ある技術の基盤の維持と、其の維持と云う事は非常に大きな課題<sup>8</sup>だと。其の意味では先程の基幹ロケットの H- A が終わって、H- B、HTV と、で、ただ H- A のあと、H- 、H- には多分ならない世の中の中で、こう云ったものをどうやって維持して行くかと云う風な工夫と云うのは、此れまでの宇宙開発の歴史の中の新たな局面、そう云った意味での基本法かなと云う風に捉えて居ります。

松尾委員長:特のその、「維持」と言っただけで維持出来るかと云う話が御座いますので、宜しく御願います。それでは此れで、此の予算要求を了承したと云う事で宜しゅう御座いますか。じゃあ了承とさして頂きます。どうも有難う御座いました。

<sup>8</sup> 小型固体を想定した発言かと思ったら、どうもそうでは無さそうである。